あきたのりょういかちと

VOL. 508
2020.1.15

謹賀新年

「雪中田植え」

表紙の写真は第12回「美しく豊かな農村づくり写真コンクール」での受賞した作品です。雪中田植えは、田んぼに見立てた雪田にわらを植え豊作を行い1週間後、植えた稲わらなどが倒れていたり垂直に立ったままだと不作、程良く傾いていると豊作と言われています。遠い昔から、農家の願いはお米の豊作で、現在そして未来もその心は変わらないと思います。どうか今年も穏やかな年であれと祈るばかりです。

撮影者／鈴木　武　様

イメージキャラクター
みどりちゃん

CONTENT 1 新年挨拶

CONTENT 2 令和元年度土地改良関係団体役職員講習会を開催

目次 CONTENTS

新年挨拶
・本会会長【髙貝久遠】 2
・秋田県知事【佐竹敬久】 3
・全国土地改良事業団体連合会会長【二階俊博】 4
・全国水土里ネット会長会議顧問、参議院議員【進藤金日子】 5
・全国水土里ネット会長会議顧問、参議院議員【宮崎雅夫】 6
令和元年度土地改良関係団体役職員講習会を開催 7
令和２年度農業農村整備事業関係予算 8
「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2019　審査結果について 10
稲川土地改良区開催　第16回ごみ捨て防止標語コンクール 10
2019語り部交流会inかづの 11
連合会日誌 11
謹賀新年（新年挨拶） 12
第62回本会通常総会開催予定 12
編集後記 12

新年のごあいさつ

秋田県土地改良事業団体連合会
（水土里ネット秋田）
会長　髙貝　久遠

明けましておめでとうございます。

皆様には、御家族おそろいで、穏やかな初春をお迎えになったことと、心からお慶び申し上げます。

また、平素より農業農村整備事業の推進に多大なる御尽力をいただくとともに、本会の運営に特段の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、「平成」が30年余の歴史に幕を閉じ、新しい「令和」の時代が幕を開けた歴史的な年でした。こうした大きな節目に私共は身を引き締め、農業・農村の更なる発展のために課せられた責務を果たすべく、決意を新たにしたところです。

本県農業の持続的発展のため、米依存から脱却した複合型生産構造への転換に向けた農業生産基盤は着実に整ってきております。水田の大区画や汎用・畑地化を図るほ場整備とともに、法人を中心とした担い手への農地集積が進んでいるほか、ほ場整備関連の園芸メガ団地も整備されてきております。

一方で、人口減少と高齢化を背景とした農業生産現場における労働力不足が深刻な問題になってきております。また、大規模自然災害に備え、ため池等の農業水利施設の適切な保全管理と耐震化対策等も急務となっております。今後は、農作業の効率化等が期待されるスマート農業の展開を見据え、その効果が十分に発揮できる基盤整備事業に取り組んでいくとともに、基幹的農業水利施設の管理体制の強化を図りながら計画的に更新事業を実施していく必要があります。

本会としても、ＩＣＴを活用した水管理システムやため池監視システムなどの先端技術の習得に努め、調査設計等において地域の実情や地元の要望に的確に応えて参ります。

こうした事業実施に必要な農業農村整備関係予算ですが、国の令和2年度予算案は、令和元年度補正予算案と合わせて6,515億円で閣議決定していただきました。前年度と比較し64億円の増額となっております。これも水土里ネットが組織を挙げて取り組んだ成果であり、今後とも、安定した予算確保のために、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本県農業が今後とも更なる発展を遂げ、「令和」の時代に成長産業として大きく飛躍できるように、水土里ネット秋田は役職員一丸となって業務に取り組んで参りますので、皆様にはより一層の御支援、御愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって、希望に満ちた実り多い年となりますように心から御祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

年頭のごあいさつ

秋田県知事
佐竹　敬久

明けましておめでとうございます。

水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、全国各地で自然災害が頻発し、本県でも降雹や水不足が発生するなど作物にとっては厳しい年であったものの、農家の皆様のご努力により、水稲については作況に恵まれたほか、園芸品目については、えだまめ出荷量日本一が達成され、しいたけも三冠王が視野に入るなど好調な状況となりました。

また、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り「天皇陛下御即位記念　第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」を本県で開催するなど、本県農林水産業にとって、新時代の幕開けにふさわしい年でありました。

その一方で、農業を取り巻く情勢は、米政策の見直し等による産地間競争の激化や、人口減少を背景とした担い手不足に加え、先般、合意された日米貿易協定では、畜産物が一層のグローバル化の波にさらされるなど、厳しさを増しております。

こうした中、本県においては、コメ依存脱却に向けた複合型生産構造への転換の取組として、園芸メガ団地や大規模畜産団地の整備を進めており、コメ以外の産出額が増加傾向で推移し、その伸び率は、ここ数年、全国トップクラスを維持しております。この流れを更に加速させるためには、園芸品目の大規模生産拠点の全県展開を図るとともに、高齢化や人口減少にも対応できるよう、先端技術を駆使した次世代型農業を確立することが重要となっております。

そのためには、複合型生産構造への転換を支え、スマート技術をフルに活用できる基盤整備の一層の推進が不可欠であることから、引き続き、ほ場整備、農地中間管理事業による農地集積、園芸振興施策を三位一体で行う「あきた型ほ場整備」の加速を図るほか、基盤整備の視点からＩＣＴを活用したスマート農業の実証等を進めてまいります。

また、今年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、本県においても事前合宿を行う選手・関係者をはじめ外国人観光客等の来訪が増えることが見込まれるほか、この秋には、秋田米のフラッグシップとなる新しい極良食味米がお披露目となることから、本県の農業・農村の魅力を積極的に発信してまいりたいと考えております。引き続き、元気で活力ある農村の維持・発展を応援してまいります。

いずれにいたしましても、秋田県農業が成長産業として発展していくため、私自身が先頭に立って、農業農村整備事業を力強く推進してまいりますので、水土里ネット会員の皆様におかれましてもなお一層のご支援をお願いいたします。

結びに、新しい年が皆様にとって希望に満ちた飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。

新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長　二階　俊博

令和2年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、6月、8月の大雨、さらに台風第15号、第19号による暴風雨等により、全国各地で非常に多くの災害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災をされた多くの皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

また、復旧・復興のために、被災地の最前線に立って日夜ご尽力頂いている多くの土地改良関係の皆さまに心から敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

さて私は、本会の会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、「平成」から新しい元号「令和」となる大きな節目の年に、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和2年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、昨年度当初予算を上回る4,433億円を確保することができました。さらに、令和元年度の補正予算・臨時特別措置枠を含めると6,515億円となります。皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

また、昨年７月の参議院選挙におきましては、宮崎雅夫君が強豪ひしめく厳しい闘いの中、見事、勝利を勝ち取りました。進藤金日子参議院議員とともに、土地改良にとって実に12年ぶりの「車の両輪体制」が実現したわけです。

このように土地改良は、新しい元号「令和」の幕開けにふさわしいスタートを切ったわけであります。これも一重に「闘う土地改良」の旗印の下、組織一丸となって闘った結果であり、皆様方の御協力の御陰であります。

いま、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。特にここ数年は大規模な風水害により、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いており、平成30年の7月豪雨では、全国で32カ所のため池が決壊し、尊い人命も犠牲になるなど未曾有の被害が発生しました。

これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、2年続けて土地改良法が改正されるとともに、老朽化したため池の整備について抜本的な施策を講ずるため、長年の懸案であった「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が国会で成立、施行されました。さらにいま、政府・与党では「食料・農業・農村基本計画」の見直しも議論されているところであります。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員
進藤　金日子

新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。昨年も多くの自然災害が発生しました。被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、昨年末に令和元年度補正予算と令和2年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,515億円（対前年度比64億円）を確保できました。これも偏に、農業の競争力強化と美しい農山村の形成に不可欠な土地改良の実施に向けての現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、引き続き「国土強靭化」に重点が置かれたこと、水田の高度利用対策が更に重点化されたこと、農業の競争力強化に加えて中山間地域等の条件不利地域の振興対策が手厚く措置されたことだと捉えています。予算の増額措置により土地改良が更に促進されますが、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫さんが参議院議員として活躍しております。これも皆様方のご理解とご支援の賜物です。宮崎議員と私とが水鳥の強固な水掻きとしてフル稼働して、皆様と連携しながら「闘う土地改良」を共闘し、引き続き諸課題の解決とともに令和の新たな時代を切り拓くべく専心努力してまいる覚悟ですので、ご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

貴会の益々のご発展と本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

新年を迎えて

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員
宮崎　雅夫

新年明けましておめでとうございます。

秋田県の土地改良関係の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私にとっての昨年は大きな前進の年でありました。一昨年の1月から、土地改良の推進、農山漁村の振興のため、地球8周分に当たる30万キロ以上を移動しながら全国各地をお伺いし、地域の状況を自分の目で見て、皆様からのご意見を自分の耳で聞き、私の考えを自分の口で話をさせていただくなどの政治活動を行ってまいりました。秋田県の皆様をはじめ全国の皆様からご支援をいただき、お陰様をもちまして昨年7月末の参議院議員通常選挙において当選の栄に浴することができました。

当選後、8月1日に召集された臨時国会で初登院し、10月4日に召集された臨時国会では、農林水産委員会、決算委員会、地方創生及び消費者問題に関する特別委員会、資源エネルギーに関する調査会に所属しております。農林水産委員会等で三度質問に立たせていただき、土地改良の推進や予算の確保などこれまでの活動中皆様から頂いたご意見を私の質問として農林水産大臣等にしっかり伝えました。党での各種部会での発言なども含め、皆様と国政を繋ぐパイプとしての役割を果たせるよう日々努力してまいります。

昨年も残念ながら台風19号をはじめ一連の自然災害により、約3,800億円を超える農林水産関係被害が生じるなど、農地や農業用施設も全国各地で大きな被害が広範囲で発生いたしました。早期の復旧はもちろんですが、土地改良の農村で果たす大きな役割を踏まえ、防災・減災、国土強靱化の取り組みを強力に進めていかなければなりません。

特に、ため池の耐震対策・豪雨対策などのハード面やハザードマップの整備などのソフト面の対策は待ったなしです。政府の「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」による集中的な取り組みが終了する令和2年度以降も更に取り組みが促進するよう全力で取り組んでまいります。

そして、それぞれの地域農業が発展するための基礎となる基盤整備は、着実に進めていかなければなりません。省力化だけではなく若者の興味も高めるスマート農業は平地のみならず中山間地も推進していく必要があります。そのためには情報基盤の整備を含め基盤整備は欠かすことのできないものです。

これらの計画的な実施には、土地改良予算の安定的な確保が必要不可欠です。皆様からの大変大きなご支援により、令和2年度は、当初4,973億円、補正1,542億円の6,515億円を確保することができました。今後ともこの流れを止めることのないよう尽力してまいります。

また、産業政策だけではなく、家族農業や中小規模の農家、兼業農家の役割を再確認しつつ、地域農業、農村集落自身を守っていくための地域政策をバランスよく実施していかなければなりません。農政の基本となる食料・農業・農村基本計画の5年に一度の見直しが進められていますが、その中にもしっかりと位置づけられる必要があります。

私は「土地改良、農山漁村は未来への礎」と訴えてまいりました。令和の新しい時代に皆様のご意見を伺いながら土地改良を推進することにより、世界に誇る我が国のすばらしい農山漁村を子供たち孫たちに引き継げるよう、先輩の進藤金日子参議院議員と力を合わせて努力をしてまいります。12年ぶりに土地改良二人体制となり、人口減少社会に突入した我が国の状況を踏まえ、土地改良の必要な見直しも大胆に進めていきたいと考えております。また、農村女性の創造力や企画力、行動力などは、これからの農村振興を加速する重要な原動力と考えています。昨年12月には「全国水土里ネット女性の会」が設立されたところであり、今後の活発な活動に私もお手伝いをさせていただきたいと思っています。引き続き進藤議員と私にご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

今年は、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、更に多くの外国人の方が日本に来られることが期待されています。日本の農業、農村のすばらしさを皆様どんどん発信してまいりましょう。

最後に、本年が皆様にとってよりよい一年となりますようお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和元年度 土地改良関係団体役職員講習会を開催

今年度は、11月15日（金）の平鹿支部役職員講習会を皮切りに12月6日（金）まで県内9会場に於いて、延べ718名の関係者が参加し盛会のうちに終了することが出来た。

髙貝会長挨拶

能見次長挨拶
（11月15日平鹿支部役職員講習会）

■水土里ネット秋田からの情報提供

①「会計指導員が行う指導監査について」
②「相続財産管理人制度の活用支援について」

■各支部の日程及び主な個別テーマ

○平鹿支部（役職員）11月15日（金）
個別テーマ「“農業×ＡＩ＝イノベーション”を土地改良で支えよう」
講師：東北農政局旭川農業水利事業所　所長　坂根　勇

○山本支部（役職員）11月18日（月）
個別テーマ「秋田県の農業農村整備について」
講師：秋田県農林水産部　次長　能見　智人

○鹿角、大館・北秋田支部（役職員）11月19日（火）～20日（水）
個別テーマ①「にんにくの一大産地化による地域活性化を目指して」
講師：株式会社しらかみファーマーズ　代表取締役　小林　郷司
個別テーマ②「農地バンク5年後見直しについて」
講師：公益社団法人　秋田県農業公社　次長(兼)農地改良課長　田口　博

○仙北支部（役員）11月21日（木）～22日（金）
個別テーマ①「私のデザインする農山村」～仙北市に移住して～
講師：仙北市役所観光商工部観光課（兼）農山村体験デザイン室
課長（兼）室長　泉谷　衆
個別テーマ②「仙北地域の新たな動き」
講師：秋田県仙北地域振興局　局長　佐藤　暢芳

○仙北支部（職員）11月28日（木）
個別テーマ「ビジネスマナーについて」
講師：株式会社北都銀行　お客様相談室　時田　悦子

○雄勝支部（役職員）11月29日（金）
個別テーマ「スマート農業に対応した農業農村整備について」
講師：一般財団法人　日本水土総合研究所　調査研究部　部長　瀧川　拓哉

○由利支部（役職員）12月3日（火）
個別テーマ「郷土の文人『小島彼誰（夕雨）』の文芸と生涯」
講師：小島彼誰顕彰会　幹事長　鈴木　憲一

○秋田支部（役員）12月4日（水）
個別テーマ①「農地バンク５年後の見直しについて」
講師：公益社団法人　秋田県農業公社　次長(兼)農地改良課長　田口　博
個別テーマ②「これからの農業農村整備について」
講師：秋田県農林水産部農地整備課　課長　舛谷　雅広

○秋田支部（職員）12月6日（金）
個別テーマ「これからの農業農村整備について」
講師：中泉　松司

▲佐藤暢芳氏
（11月21日仙北支部役員講習会）

▲坂根勇氏
（11月15日平鹿支部役職員講習会）

▲中泉松司氏
（12月6日秋田支部職員講習会）

▲山本支部役職員講習会
（11月18日　大潟村）

▲仙北支部職員会
（11月28日　大仙市）

令和2年度農業農村整備事業関係予算

概算決定の概要

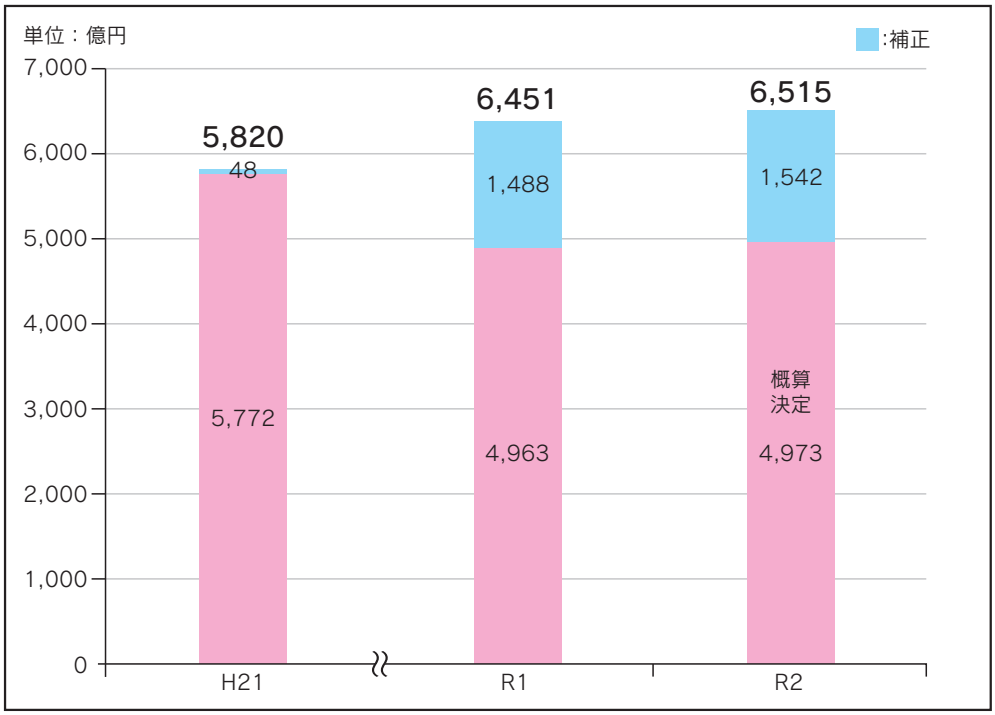
令和2年度農林水産予算について、12月20日に下記の内容が閣議決定された。

（単位：億円）

区　　分	2年度 概算決定額 A	2年度 臨時･特別の措置 B	元年度 補正額 C	合　計 A＋B＋C	【参考】 元年度 予算額 A’	30年度 補正額 B’	合　計 A’＋B’
農業農村整備事業（公共）	3,264 （100.1%）	－	－	3,264	3,260	－	3,260
農地耕作条件改善事業	250 （83.3%）	－	－	250	300	－	300
農業水路等長寿命化・防災減災事業	258 （124.0%）	－	－	258	208	－	208
農山漁村地域整備交付金（公共） （農業農村整備分）	661 （101.7%）	－	－	661	650	－	650
農業水利施設等・ため池の防災・減災対策（公共）	－	540	－	540	546	－	546
総合的なTPP等関連政策大綱に基づく施策の実施	－	－	946	946	－	942	942
水害等への防災・減災、国土強靭化の更なる推進	－	－	596	596	－	546	546
計	4,433	540	1,542	6,515	4,963	1,488	6,451

（注）1．計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
　　2．下段（　　）書きは、令和元年度予算額との比率である。

農業農村整備事業関係予算（当初及び補正）の推移



＜注目事項＞

○農業農村整備予算は4,973億円を計上。令和元年度補正予算と合わせて6,515億円となる。

○平成22年度大幅削減となった農業農村整備予算が削減前の平成21年度当初予算を大幅に超える額となった。

令和2年度農林水産関係予算の重点事項（抜粋）

（注）１．各事項の下段(　　)内は、令和元年度当初予算額
（減額補正した場合は補正後予算額）
２．【補正予算】は、令和元年度補正予算

担い手への農地集積・集約化等による構造改革の推進

農地中間管理機構による農地集積・集約化と農業委員会による農地利用の最適化

●農地の大区画化・汎用化の推進＜公共＞ ・農地中間管理事業の重点実施区域等において、担い手への農地集積・集約化を加速化して米の生産コストの大幅な削減を図るため、農地の大区画化や排水対策、水管理の省力化等の整備を推進	3,264億円の内数 （3,260億円の内数）	【補正予算】 （農地の更なる大区画化等の推進） 270億円

水田フル活用と経営所得安定対策の着実な実施

水田フル活用の推進

●水田農業の高収益化の推進＜一部公共＞ ・高収益作物の導入・定着を図るため、「水田農業高収益化推進計画」に基づき、国のみならず地方公共団体等の関係部局が連携し、水田における高収益作物への転換、水田の畑地化・汎用化のための基盤整備、栽培技術や機械・施設の導入、販路確保等の取組を計画的かつ一体的に推進	（農業農村整備事業） 3,264億円の内数	【補正予算】 （水田の畑地化、畑地・樹園地の高機能化等の推進） 566億円

「スマート農業」の実現と強い農業のための基盤づくり

農業農村基盤整備（競争力強化・国土強靱化）

●農業農村整備事業＜公共＞ ・農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の長寿命化や豪雨・耐震化対策等を推進するとともに、スマート農業の基礎インフラとして、ＩＣＴを用いた水管理省力化技術の導入等も推進	3,264億円 （3,260億円）
●農地耕作条件改善事業 ・農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化、高収益作物への転換、モデル的な産地形成を推進するため、機構による担い手への農地の集積・集約化が行われる地域等において、農業者の費用負担の軽減を図りつつ、事業を実施すること等により、区画拡大等を促進	250億円 （300億円）
●農業水路等長寿命化・防災減災事業 ・農業生産活動の基盤となる農業水利施設の機能を安定的に発揮させるため、機動的かつ効率的な長寿命化対策及び防災減災対策を支援	258億円 （208億円）
●農山漁村地域整備交付金＜公共＞ ・地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策に必要な交付金を交付	661億円 （650億円）

災害からの復旧・復興と防災・減災、国土強靱化

水害等への防災・減災、国土強靱化の更なる推進

●農業水利施設等の防災・減災対策＜公共＞ ・農業水利施設等について、自然災害の際にも機能を確保するため、浸水被害の防止に直結する施設の改修・更新、転落防止のための安全防護柵の設置等を実施・支援	【臨時・特別の措置】 （農山漁村地域整備交付金） 29億円	
●ため池の防災・減災対策＜公共＞ ・下流への影響が特に大きく、早急に対策が必要な防災重点ため池について、機能・安全性の確保のための改修や利用されていないため池の統廃合等を支援	【臨時・特別の措置】 （農業農村整備事業） 511億円	【補正予算】 （農業農村整備事業） 572億円の内数 （農山漁村地域整備交付金） 24億円

農山漁村の活性化

日本型直接支払の実施

●多面的機能支払交付金 ・農業・農村の有する多面的機能が維持・発揮されるとともに地域全体で担い手を支えるため、農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付	487億円 （487億円）
●中山間地域等直接支払交付金 ・中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、棚田地域を含む条件不利地域での農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付	261億円 （261億円）
●環境保全型農業直接支払交付金 ・化学肥料及び農薬の5割低減の取組と合わせて、地球温暖化防止等に効果の高い営農活動を行う農業者団体等に交付金を交付	25億円 （25億円）

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2019

審査結果について

平成12年度から開始した「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展（全国水土里ネット主催）は、今年で20回目を迎え、子どもの絵画を通じ、一般国民に対する水土里ネットの啓発普及を効果的に展開するため、毎年開催している。今年度の入賞作品は、「東京美術館」12月4日（水）～12月11日（水）で展示を行った。

秋田県からは過去最多の201作品の応募があり、今年度はその中から3作品が受賞した。

入　選

「じじのでっかいトラクター」

羽後町　みわこども園

古関（こせき）　美瑚（みこ）　さん

入　選

「田んぼにうつる夕日」

横手市立横手北小学校

5年　木村（きむら）　咲美（さくみ）　さん

水土里ネット秋田会長賞

「苗（にゃ）っこにおんがくを聞かせたよ！」

羽後町立三輪小学校

2年　古関（こせき）　陽花子（ひなこ）　さん

稲川土地改良区開催

第16回ごみ捨て防止標語コンクール

稲川土地改良区にて第16回ごみ捨て防止標語コンクールが開催された。このコンクールは地域のごみ捨て防止の啓発及び水路等の美化運動という目的の下、平成16年度から開始され、今年で16回目を迎える。今年は小学生の部に154点、中学生の部に215点、の応募があり、小学生の部及び中学生の部の最優秀賞作品には本会会長賞が授与された。

本コンクールを継続する事でごみ捨ては徐々に減少傾向にあり、地域の子ども達や父兄に土地改良区の地名度が上がっているとのことである。今後も地域一帯となった本活動の継続により、水土里ネットの果たす役割が地域の方々へ浸透していくことが期待されている。

最優秀賞作品（秋田県土地改良事業団体連合会　会長賞）

小学生の部

ぜったいに　守ってみせる　この景色　水土里を守る　ぼくらの決意

湯沢市立稲庭小学校４年　**齊藤（さいとう）　陽哉（はるや）** さん

中学生の部

我が町の　澄んだ山々　清き川　皆で守り　未来を築く

湯沢市立稲川中学校２年　**髙橋（たかはし）　琉星（りゅうせい）** さん

2019 語り部交流会 in かづの

《歴史と文化が織りなす交流の里「かづの」の未来づくり》
～水土里豊かな「ふるさと」を次代へつなぐ～

11月29日（金）鹿角市文化の杜交流館コモッセにて「2019語り部交流会inかづの」が開催された。

秋田県では平成23年から「語り部交流会」が毎年開催され、今年で9回目を迎える。

開催にあたり、秋田県土地改良事業団体連合会鹿角支部 田口支部長より「鹿角地域は、栄華な鉱山の歴史、技術を活かした産業の推進を始め、十和田八幡平国立公園を核としたツーリズムの推進、また、北限の桃、鹿角牛と言った食の鹿角を強くPRしている。近年は地域外からの移住、定住を促進し、県境と言う地の利を活かした取り組みにより交流人口、関係人口の拡大が図られてきた。当地域も人口減少や高齢化の問題はあるが、ふる里のより良い未来に向け、地域の人々と繋がり、暮らしをしっかりと育んでいきたい」と挨拶があった。

基調講演として、**あきた森づくり活動サポートセンター総括所長でふるさと水と土指導員 菅原徳蔵**氏より**「縄文のふるさとinかづの」**と題し、講演して頂いた。

次に**「郷土愛を育み、ふるさとの未来を拓く学校教育」**と題し、**鹿角市立花輪第一中学校初任者研修統括指導教員 阿部義弘**氏、**「水土里の大切さを次代へ伝え続ける土地改良区～小学校での出前授業から～」**と題し**かづの土地改良区 根本由紀子**氏、**「田舎暮らしの魅力発信～地域資源の創造から地域内外のつながり構築へ～」**と題し、**NPO法人かづのclassy 代表理事 木村芳兼**氏、**「伝説の里『かづの』の民話を語り継ぐ～皮投岳物語～」**と題し、**鹿角民話の会 どっとはらぇ 語り部 佐藤友信**氏の**4名**の方からそれぞれ**地域活動報告**があった。

最後に**「水土里豊かな『ふるさと』を次代へつなぐ」**をテーマに語りフォーラムを**一般社団法人あきた地球環境会議 理事・事務局長 福岡真理子**氏を**コーディネーター**に迎え、パネラー、オブザーバーとして本日講演をして頂いた皆さんでパネルディスカッションを行った。

閉会の挨拶を県鹿角地域振興局農林部進藤部長より、「この鹿角地域では小中学生のふるさと教育、出前授業が充実している地域だと思う。将来、何処にいても鹿角の歴史や文化を自分の口で話す事ができる、立派な人材に育ってくれるのではないかと期待している」と挨拶があり、令和元年度の語り部交流会は幕を閉じた。

連合会日誌

12月５日	秋田県農業再生協議会臨時総会	秋田市
12月12日	令和元年度換地計画実務研修	秋田市
12月12日	県選出国会議員要請活動（～ 13日）	東京都
12月19日	第５回監事会	本会第３会議室
12月19日	第３回理事会・第２回役員会	本会第１会議室
１月９日	都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者会議	東京都

今後の行事予定

１月24日	「秋田県農業共済組合」合併予備契約調印式	秋田市
１月24日	職員会第２回役員会	秋田市
１月24日	令和元年度第２回秋田県農村振興技術連盟・スキルアップ研修会	県庁第２庁舎大会議室
１月30日	令和元年度土地改良区体制強化事業統合整備推進研修会	宇都宮市
２月５日	令和元年度「災害復旧技術向上のための講習」	秋田市
２月17日	第６回監事会	本会第３会議室
２月17日	第４回理事会・第３回役員会	本会第１会議室
３月26日	全国水土里ネット第62回通常総会・土地改良功労者等表彰式	東京都

※秋田市総社神社の特大絵馬

会　長	髙貝　久遠	秋田県田沢疏水土地改良区理事長	
副会長	田口　信一	かづの土地改良区理事長	
〃	藤井　弘道	秋田県南旭川水系土地改良区理事長	
専務理事	藤原　元吉	員外（学識経験者）	
常務理事	金森　正広	員外（学識経験者）	
理　事	市川　雄次	にかほ市長	
〃	南都　武男	昭和土地改良区理事長	
〃	大坂　芳市	雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区理事長	
理　事	成田　光弘	北秋田市土地改良区理事長	
〃	松田　知己	美郷町長	
〃	児玉　一	鹿角市長	
〃	三浦　昭夫	由利本荘市土地改良区理事長	
〃	小川　善信	能代南土地改良区理事長	
総括監事	石山　金由	二ツ井町土地改良区理事長	
監　事	長坂　一二	秋田市上新城土地改良区理事長	
〃	髙田　清茂	山城水系土地改良区理事長	
外職員一同			

開催予定

本会第62回通常総会

日時 令和2年**3月13日（金）** 午後1時

会場 **秋田市文化会館 5階大会議室**

秋田市山王七丁目3-1　018-865-1191

編集後記

明けましておめでとうございます。お正月休みはご家族、ご友人、大切な方々とゆっくりお休みできましたでしょうか。私は祖父母の家へ行ったり、自分の家で過ごしたりといつもと変わらないお正月を過ごし、満喫しておりました。

さて、昨年を振り返ってみると様々な出来事がありましたが、その中でも1番印象に残っている事として「令和」と言う新しい時代が始まった事だと思います。一体どのような時代になるのかと期待で胸が高鳴った事を今でも鮮明に記憶しています。

2020年の年は「東京オリンピック」と言う大きなイベントもあり、日本中が1つになれる年だと思います。皆様におかれましても今年1年が健康で、幸多き年となりますようお祈り申し上げます。今年も水土里ネット秋田をよろしくお願い致します。

（広報・渉外班　寺澤）

水土里ネット秋田
【発行所】 秋田県土地改良事業団体連合会　〒010－0967　秋田市高陽幸町3番37号
TEL 018－888－2750(代)　FAX 018－888－2834
http://www.akita-midori.net/
（ISO9001:2015認証）
MSA-QS-3254　CM024